

# 沙流川平取地区水害タイムライン 第1回検討会

平成28年1月29日(金)に平取町で「沙流川平取地区水害タイムライン 第1回検討会」を開催しました。本検討会は沙流川の水害に対応する関係機関を対象に行われました。さらには胆振・日高管内の自治体や北海道、北海道開発局の札幌、旭川、帯広開発建設部等がオブザーバーとして参加いただきました。

「沙流川平取地区水害タイムライン検討会」は、過去に幾度も水害が発生してきた沙流川において、関係機関が連携して住民の生命を守るために、早期の災害対応を実現するための各種検討を行うもので、今年度は平取町をモデル地区として実施しています。本検討会には、水害に対応する関係機関や平取町の職員が参加し、タイムライン策定に必要な行動項目や課題について検討および共有が図られました。



【実施日時】 平成28年1月29日(木) 13:30~16:30

【実施場所】 ふれあいセンターびらとり 多目的集会室

【参加者】 沙流川流域防災関係機関 14機関 合計82名  
胆振・日高管内 4市町等

## 開会挨拶

平取町の川上町長が開会挨拶で、各関係機関が連携して事前からの防災行動を検討していくことや、具体的な水害想定シナリオにそって防災機関の対応を検討をしていくことは、大変有意義であると述べられました。さらに、この取り組みが、周辺地域のモデルとなることを祈念しているとのお話がありました。



## 設置要綱

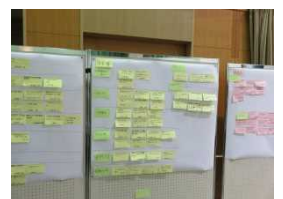
事務局より、沙流川地区水害タイムライン検討会設置要綱(案)について説明が行われ、1月29日付で施行されました。

## ワークショップ

松尾座長からタイムラインは地域ごとに内容が異なるもので、地域で作りあげることの重要性と必要性を話した上で、ワークショップの説明を行いました。

**1. 災害シナリオ** 事務局である室蘭開発建設部の村椿上席治水専門官から水害シナリオの説明、室蘭地方気象台の佐々木予報官から気象情報についての補足説明がありました。さらには水害シナリオに対する質疑が行われ、災害情報の扱いや浸水地域の設定等について話し合われました。

**2. ワークショップ** ワークショップでは、3つのテーマについて各人から意見を集約しました。それらをパネル上に集め、同種意見毎にまとめた上で、座長による解説と各機関に対する質疑等を行いました。質疑は行政機関、自衛隊、気象台、電力会社、マスコミといった幅広い関係者で行いました。その内容も、リエゾンの派遣基準、災害援助部隊の到着にかかる時間、気象情報の伝達方法、停電の可能性と対策、想定された決壊箇所の意味、災害情報の入手方法等、多様な話題が出されました。



## 全体講評

●**黒木アドバイザー** 情報の整理と受信に関する話題、マスコミ参加の歓迎と情報源提供のあり方についてお話されました。さらに、本沙流川タイムラインに加えて、地区のタイムラインの検討の必要性和平取町周辺自治体に対する土砂災害タイムラインも含めた積極的なタイムライン策定のご意見がありました。また、緊急時の支援体制の問題点から、全道あるいは広域タイムライン策定の必要性についてもコメントされました。

●**志田アドバイザー** 犠牲者ゼロを目指して、機関連携による情報交換が可能なタイムライン策定が重要であるご意見いただきました。また、気象台から出る情報に加えて、地域によって詳細な情報が必要な場合があり、そのような場合にはコメントして、タイムライン策定に貢献していきたいとのご意向もいただきました。

●**紀宝町 新元特別参与** タイムライン策定の経験者として、苦労した点と困難であったことについてコメントをいただきました。

